

# グループホーム ベル・エポック

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>職員のグループワークで、自分達が住みたくなるようなホームの運営方法について意見を出し合い、基本理念を作った。フロアに掲示し、目に留まるようにしている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>掲げた理念が共有できるように勉強会を開催し、ケアプランや毎月1回のミーティングで反映させ、理念が実践できるように取り組んでいる。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>家族会を開催し、職員・入居者・家族の交流が図れるようにしている。また月1回グループホームだよりを発行し、園内での出来事、行事等をお伝えしている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>近所の公園に遊びに行った際に声をかけてもらうことがあるが、日常的なつきあいという点ではない。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>地域の行事には参加していない。しかし運営推進会議を通して、何かあったときのために、近隣地域で「地域防災協定」を締結していこうと取り組んでいる。</p>

## グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしについての話し合いや取り組みは行っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を職員に配布し、改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催した際は、サービス内容や行事等の報告を行っている。また「地域防災協定」を締結して、地域との協力関係を構築していこうと取り組んでいる。		今後「地域防災協定」が締結されるように取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実地指導が行われ、そこで指摘された事項について、市と共に改善、質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修があった際は回覧をしているが、勤務状況として厳しく、なかなか参加に結びついていない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を開催し、職員に意識付けを行っている。		

## グループホーム ベル・エボック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に必ず契約を行い、その際に十分に説明を行いご家族に理解をして頂こうとしているが、その後も不明な点等があれば、遠慮無く尋ねられるように、良好な人間関係を構築しようと努力している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口・担当者を設け、担当者においても解決が困難な場合は重要事項説明書に記載している区役所の介護保険係もしくは国民健康保険連合会が窓口になっていることを契約締結時に説明している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>普段と異なる状態の時は、逐一家族等に電話にて報告し、時にはご本人の状態を確認していただくために、面会を促すこともある。金銭管理はホームが立て替えた分の領収書を送付している。職員の異動等は、月1回発行するお便りの中でお知らせしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を開催し、意見等がある時には話して頂いている。また面会などの際に、時折一般職員ともコミュニケーションを取ってもらい、家族等にとって直接管理者等には話しにくい事柄などを聞いてもらっている。</p>		<p>今後もご家族とより良いコミュニケーションが保たれるように努めていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回ミーティングの機会を設け、意見や提案を反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者から帰宅希望ある際は、ご家族の都合の良い時間帯を確認した上で帰宅支援を行っている。また行事などのときは、普段は3人の日中勤務体制を4人の勤務体制を組んでいる。しかし最近は人手不足で、職員確保が困難な状況である。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者へのダメージを防ぐ配慮は十分とは言えないが、配置転換や離職の理由など、職員のプライバシーにも同時に配慮する必要があり、ケースバイケースで入居者に説明している。</p>		

グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	職員は希望の研修や講習会に参加できるよう、回覧をしている。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	勉強会、ミーティングを通じて、活動に取り組んでいる。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修がある際は書類を職員に回覧し、参加を促している。		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	交流会等の参加要請が有れば、なるべく参加するようにしている。また運営を行うにあたって不明な点があれば、同業者に連絡している。		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員間で相談しやすい雰囲気作りを心掛けている。一人で業務中に悩みを抱え込まないように職員間で声を掛け合っている。		

## グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	認知症の月刊誌を定期購読し、福祉新聞も取っている。研修等があるときは回覧を行い、参加を促している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の際に訪問・面接を行い、ご本人、ご家族の不安を取り除けるようコミュニケーションを図っている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族とご本人の状況について話を伺い、また以前本人が居住されていた施設関係者、在宅であれば介護支援専門員と連携を取り合い、ご家族の不安の解消に努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のその時の要望には、病院受診等、可能な範囲で即座に対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬよう徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他事業所の職員や、入居希望するしないに関わらず、希望があれば施設の見学をしていただいている。また「お試し入居」の機会を設け、利用可能な方は利用して頂き、徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の状況についてミーティングを通じて、入居者は何を望んでいるのか考察する機会を設けている。個別に買い物や、外出等を楽しんでいる。		

## グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何か状況変化が有ればご家族に報告し、一緒に病院受診等に付き添って頂くことで、共同して今後の支援の在り方を考えてもらうようにしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人がご家族に関して希望されたこと(帰宅など)は、時にはご本人の気持ちを職員が代弁したり、同時にご家族の事情を勘案して、ご家族の要望を受け入れながら、ご本人の希望を實踐して、本人と家族が良好な関係となるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅から馴染みのある品物等を持ってきたり、他施設へ入居されている配偶者のもとへ面会にお連れしたりしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	体調の悪い方でも可能な範囲で離床を心掛け、他入居者と顔を合わせることで連帯感や一体感がなされるよう促している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約書にて円滑な退所のために必要な援助を行うことを謳っており、退居後でも、疑問や意見等有れば、遠慮無く話をしていただくようお願いしている。退居後不幸にも亡くなられた時も、お葬式に参加させて頂いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の意向に添うように、可能な範囲で対応している。物品購入の要望や、買い物の要望が有れば、対応している。		

## グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から情報を収集し、記録としてまとめている。一部の方はセンター方式の一部を採用し、状況の把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のミーティングを通じて、入居者の心身状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティングや毎日のミーティングで心身状態を把握し、また本人やご家族との普段の会話を通じて意見を集約し、介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、定期的な見直しを行っている。また入院等突然の変化の際にも、退院時の状況に応じた計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状態を個別記録に記載している。また申し送りノートを作成し職員同士の情報共有を図ると共に、介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	突発的な要望(主に受診や買い物等)があっても、可能な限り対応するようにしている。		

## グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じて、地域ぐるみでの防災協定を締結しようと話し合いを重ねている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院受診や入院の必要性の有無などは、地域の病院のSWと連携しながら対応している。また在宅から入居される方のケアマネと連携しながら対応しているが、他の介護サービスについては利用の必要性はみられず、連携の機会はない。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働する機会はない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関だけでなく、ご本人のかかりつけ医にも受診にお連れしている。またご本人について心配な点があれば、所属長が医師と話をして対応している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の認知症専門医療機関と連携しながら、不明な点、心配な点は直接医師と話をしながら支援をしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接の病院の看護師と相談しながら、対応している。		



## グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	医療機関と退院時の相談・連絡をしながら適切な退院に備えている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	指針を定めており、それに沿った対応を行っている。ご家族から早い段階で意思確認を行い、その意思に添った対応が可能か検証し、可能な限り対応できるようにしている。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	ご家族の希望をできるだけ受け入れつつも、できること・できないことを説明し、対応している。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	別の場所に移り住む際には、その担当者で話し合い、ご家族と見学した上で、ご家族の意向を尊重して対応している。		当園の対応可能な範囲と、できないことを見極めながら、ご家族、ご本人に納得してもらいながら対応していきたい。
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	入居されている方々は、人生の大きな先輩であることを念頭に置き、日々対応している。		

グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の性格や、現在の精神状況、気分の在り方などを考え、適切な声掛けをはじめとする対応を心掛け、その中でご本人の意思表示が自然に表出されるよう支援を行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9名の入居者がいるため、現実としてはどうしても、全てにおいて「個人意思の自由のままに」というわけにはいかないが、その中においても可能な限り、本人の意思が円滑に実現できるように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自宅に帰宅した際にご家族と一緒に好きな洋服や帽子を選び、持ち帰られる方がいる。理美容に関しては本人からの希望も特になく、ボランティアで来られる理美容の方に整髪を依頼している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・調理は隣接の病院の厨房で行っている。調理はおやつ作りのレクレーションを通じて行っている。食事の準備・後片づけは、ほんの一部であるが入居者に協力してもらっている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調を考慮しながら、タバコを吸ってもらったり、人によってはお酒を飲んで頂いたり、お菓子を食べて頂いたりしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	人によっては排泄パターンを把握し、失禁を防ぐためその時間帯に排泄できるようトイレ誘導を行っている。また居室ではポータブルトイレを使用するなど、安易にオムツ使用とならないようにしている。		

グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の目安として入浴される日には決めているが、本人が希望されない時には無理に入らせて頂いていない。逆に入浴日でない日に希望され、入浴の必要性がある時でも、入浴していただくようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の体調や気分を考慮して、それに応じた休息を取って頂くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じて外出したり、日常的には近所の公園に遊びに行ったりしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力があると判断される方は、お金をお渡しし、お金を使用する楽しさを味わって頂いている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園に行き、体操やレクリエーションを行うこともある。また本人の希望に応じて、その日に対応できるときは、一緒に買い物も行かされている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	時折皆でドライブをしたり、外出をすることはある。		

## グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が制限することはないが、書かれても相手先の住所が正しいものか、ご家族でも判断つかない場合がある。書く能力が衰えている方が多く、そのような支援は以前はしていたが、現在は無い。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	過去の職場の方や、以前住んでいた所の知人・友人、また家族の方が面会に来られている。面会時間は特に制限ない。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドから転落の可能性が有る場合は、ふとんに代えたり、センサーを置いて対応している。マニュアル等も整備している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入口がエレベータであるため施錠しているが、外出の希望があった場合は職員が同行することで対応している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間を通じて、フロア全体が見渡せる場所に職員を配置している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険がある場合は代用品で対応したり、視界に入らないような場所に置き換えるなど、工夫をしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントの勉強会を開催している。		定期的な開催ではないため、職員の意識が薄い時もある。もっと職員が認識を深められるような勉強会や他の対応をしていきたい。

グループホーム ベル・エボック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、また3月には「AED」を使用した訓練を、消防署と合同で実施した。その後「AED」を設置している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施し、入居者の避難経路・避難誘導方法を確認している。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族が面接に来られた際に、ご本人の状況の説明し、危険性と対応策をお伝えしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りノート等を活用し、体調変化等の情報を共有している。また緊急の際には緊急連絡網により連絡をとり、早急に医療機関等への受診、救急車での搬送などを行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に薬が変更した場合などは、なぜ変更され、どのような副作用等があるのか、申し送りノートを活用し職員に伝達している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操時にお腹を回す運動や、便秘時には通じのよいおやつを提供したりしている。		

## グループホーム ベル・エポック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成し、確認できるようにしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成しており、感染予防のため、タオルの使い回しをしないよう対応している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	病院の厨房が主に調理しており、食材管理は主に厨房で行っている。おやつ等個人的なものはホームの冷蔵庫で保管し、CWが管理を行っている。入居者が個人的に冷蔵庫を持っている方もおり、それらの方は、職員が時々冷蔵庫を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口にウェルカムボードを掲示し、各居室にも写真やイラストを掲示しているが、建物の構造が施設的である。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや壁紙を明るい色遣いにして、施設的な雰囲気を和らげている。		

## グループホーム ベル・エポック

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間とは別に、ソファのコーナーを設けている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、本人の気に入ったもの、馴染みのあるものを持ってきて頂いている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を行っている。空調は各部屋個別に温度調節ができ、本人の希望に応じて調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレは手すりを設置している。フロアはすべてフラットである。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	清掃をして壁にシミや汚れなどを放置していない。逆にトイレなどは迷わないように、明確に示すようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	立地上、建物の外回りを自由な活動に使うことは出来ない。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



## グループホーム ベル・エポック

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)